

### 研修のねらい

- EBPMが自治体職員にとって必要な概念であることを、組織をマネジメントする側から理解できるようになります。
- EBPMを行う前提として活用されるロジックモデルについて、事例を通してメンバーに情報共有ができるようになります。
- ロジックモデルの活用方法をイメージし、職場での実践を指揮できることをめざします。

前例踏襲、経路依存症に陥ることなく、戦略的・仮説的思考能力を、管理職自身が養い、組織を牽引していくための方策を習得します。

エビデンスとは何かを理解し、さまざまなエビデンスの種類とその収集方法を学びます。

事例を通して、ロジックモデルの構成要素を把握し、各要素間の因果関係や、手段と目的の違いを理解します。

自部署の課題を想定し、実際にロジックモデルを作成します。ロジックモデルを実践する上で、どのようなエビデンスを活用するかをイメージします。

作成したロジックモデルをグループ内で共有し、グループメンバー間で相互フィードバックを行います。代表者は全員の前でプレゼンテーションをします。

研修のまとめとして、自部署へ戻った後に想定される課題と、その解決策を検討します。受講者がスムーズに組織マネジメントを遂行できるように、理論から実践へのつなぎを誘発します。

※ 下記の内容は一例です。ご要望にあわせてカリキュラムをご提案いたします。

### 1日コース

午前	◎ オリエンテーション 1. 政策形成を促進する上での課題共有 ◇ グループワーク① ◇ 「現場での葛藤・悩みの共有」	2. EBPMとロジックモデル (1) エビデンスとは何か (2) EBPMの背景 (3) EBPMとロジックモデルの関係性 ◇ グループワーク② ◇ 「日頃活用するエビデンスとは？」
	3. ロジックモデルの実践【基礎】 (1) ロジックモデルを作る場面 (2) ロジックモデルを作る際の留意点 (3) ロジックモデルの作り方 ◇ ケーススタディ① ◇ 「ある自治体のケース」	4. ロジックモデルの実践【応用】 (1) チームでロジックモデルを作る意義 (2) チーム編成と場の設定 (3) チームの役割を決める ◇ ケーススタディ② ◇ 「自部署のケース」 ◇ グループワーク③ ◇ 「ロジックモデルの共有」
午後		◎ まとめ 実践に向けての工夫